

第2回 福岡市保健医療施設指定管理者選定・評価委員会 議事録

日 時	令和6年9月4日（水）15時30分～17時10分	
会 場	アクロス福岡 西館6階 会議室602	
出席者	委 員	神坂委員、楠原委員、齊藤委員、中原委員、森田委員
	事務局	健康医療部長、地域医療課長、地域医療係長、係員2名

< 議事録 >

1 開会

2 委員紹介

3 会議の取扱い

要綱に基づき、第3条第1項第3号及び第3条第2項第1号を除き、公開とした。

4 議題

（1）各施設への指定管理者申請状況及び審査の実施方法について

《事務局より説明》

（質疑なし）

（2）福岡市立玄界診療所の申請団体への審査について

《事務局及び申請団体より説明》

○委員

直近の決算において赤字となっている理由は。また一時的なものか。

○申請団体

直近数年は、コロナの影響が大きかった。2019年頃から、コロナの影響で通常の患者数が減少した。コロナ受入病床を増やすことで、その分の補填はいただいたが、コロナ病床がかなり占めていたため、結果的に赤字となった。

現在は患者数も戻ってきており、また診療報酬改定もあり、収支は改善している。

また、昨年、一部の病床を介護医療院に転換する調整のために、一時的に受け入れ患者数を絞っていたことも減収につながった。これらの状況は一時的なものであり、従前の収益ベースに戻れば、赤字は解消される予定である。

○委員

現在は複数医療機関の医師派遣で運営しており、同様の方法を継続予定とのことだが、急遽、代替要員が必要となる際などに、現在は指定管理者が中立の立場である医師会のため、比較的、調整しやすいと思うが、貴院は医療機関のため、他の派遣元と立場は同じとなる。人員調整などは問題なく行えるのか。

○申請団体

現在も、他の派遣元団体とは連絡調整しながら医師派遣を行っているが、島しょ診療以外の部分、例えば県の病院会などでも院長同士が通常から連絡を取り合っており、相互に協力できる関係性にあると考えている。

○委員

玄界診療所に医師派遣を行う中で、医師不在時の緊急連絡体制等において問題と感ずる部分、具体的に困った事例等はあるか。

○申請団体

現在の運用では、指定管理者である福岡市医師会からの緊急連絡等は、当院にも申し渡りなされており、連絡体制について特段、問題と認識している部分はなく、これまで具体的に困った事例などは確認されていない。

○委員

情報通信機器を用いた診療というのは、具体的にどのようなことを考えているのか。

○申請団体

県が運用するとびうめネットの活用や、国も医療 DX を推進しており、FAX による連絡体制の改善などが挙げられる。また遠隔医療等に関しても、提案できることがあればと考えている。

○委員

収支計画を策定する中で、人員確保やその他の部分で検討した部分はあるか。

○申請団体

光熱費等は改善の余地が少ないが、診療報酬請求事務は、当法人でも通常業務として行っており、コスト削減できると考えている。

○委員

貴院における現在のコロナ受入れ状況は？

○申請団体

積極的に受入れを行っている。コロナの受け入れは現時点でも、10 名以上行っており、これまで一部の医療機関しか対応していなかった下り搬送の受け入れも実施するようになった。

○委員

前回公募時は申請されていなかったが、今回、申請された理由を伺いたい。

○申請団体

以前から、玄界島への医師派遣という形で診療所運営に関わっており、特に他の医療機関よりも派遣実績は多く、また当院医師の際の受診者数も多い。当院に入院されている患者からの在宅に戻って以降の相談も受けていることもあり、これまでの派遣実績を踏まえ、今回のタイミングで申請した。

○委員

指定管理を行うことでの貴院のメリットは？

○申請団体

社会医療法人のため、へき地診療の取り組みを通じた島民の方々への貢献により、公に還元するというのが当院の理念に沿った取り組みである。

○委員

施設については、修繕を要する箇所も多いと聞く。中長期的な対応方針などはあるか。

○申請団体

修繕等が必要なところは多いと認識している。福岡市と協議しながら、環境改善にしっかり対応していきたい。

○委員

貴院は予防や認知症等の対応に強みがあると思うが、そうした部分も島民へ還元できるのか？

○申請団体

当院の強みとして自負している。現在も月に1回、リハビリスタッフが島に行き、健康教室を開催している実績等もあり、島民の要望も頂いているため、今後も継続的に対応していきたい。

《審査の実施》

【非公開】

(3) 福岡市立能古診療所の申請団体への審査について

《事務局及び申請団体より説明》

○委員

診療所としての機能について、能古診療所と玄界診療所で異なる部分は？

○申請団体

玄界診療所は宿直があるが、能古診療所は日勤のみのため、運営面の負担は比較的少ない。また距離的に近いことで、島民へのサービスは行いやすいと認識している。

○委員

玄界島と能古島とでは、アクセスはどのくらい違うのか。

○申請団体

夜に船便がなくなるのは同じだが、玄界は渡船場から片道 35 分、能古は片道 10 分程度と認識している。また能古行きは便数が多く、欠航も比較的少ない。

○委員

収支予算書の検討にあたり、工夫された所などあればご教示いただきたい。

○申請団体

玄界診療所と同様になるが、レセプトの処理の部分等は当院にて内製化できるため、コスト等削減できる部分と考えている。他には、現在、外注している部分の見直し等を今後、行っていきたいと考えている。

○委員

現在、能古診療所に勤務している医師は何歳くらいの方か。また、その方々は、貴院が指定管理者となった場合、引き続き、勤務いただく予定か。

○申請団体

現在 70 代の方と 80 代の方と記憶している。また、当院が指定管理を行う場合には、同様の方に継続して頂きたいと考えている。

○委員

勤務医師が突発的な休みをとられる場合等、代替者はどのように確保するのか。

○申請団体

当院医師をはじめ、代替が必要な際にご協力いただける先生との繋がりも多くあるため、能古診療所の医師確保の面でマンパワーの問題はないと考えている。

○委員

貴院は認知症予防カフェなどの運営もされていると思うが、利用者の年齢層はどのような状況か。また、その層に多いのはどのような疾患か。

○申請団体

80 代以上の方がほとんど。中には 90 代の方もおられ、平均年齢は高い。認知症予防カフェに限った話ではないが、多いのは、誤嚥性肺炎や、脱水症状など。

○委員

現在は看護職の方は島内在住の方だったと思うが、貴院が指定管理を行う場合には、島外から看護師の方に通っていただくのか。

○申請団体

現在、ご勤務頂いている方に継続頂く意向である。代替要員が必要になる場合には、当院からの派遣により対応する場合もあると考えている。

○委員

能古診療所は日勤のみのため、診療所の方が島内在住であることは、島民の方にとって安心であると思う。苦情や対応事例などはあるか。

○申請団体

島しょ診療所については、特段、苦情等は特にないと認識している。看護師の方が島民ということもあり、患者からすると同じ地域のご近所さんという距離感でもあるようで、安心してご相談いただけているのではないかと思います。

○委員

財務状況は健全性が高いと考えているが、貸倒引当金について差し支えなければ内容をご教示頂けるか。今後、多額に発生するものではないか。

○申請団体

患者の長期末収金で、それ以外の要素はなく、今後、多額に発生する見込みはない。

○委員

修繕を要する箇所も多いと施設であると聞かすが、今後のどのように取り組んでいくのか。

○申請団体

適宜、福岡市にもしっかりと相談しながら、施設環境については改善していきたい。

《審査の実施》

【非公開】

(4) 福岡市立急患診療所の申請団体への審査について

《事務局及び申請団体より説明》

○委員

現状の体制を見直すとのことだが、患者が押し寄せてきた際の対策について、今後の計画はあるか。

○申請団体

現状、厳しい状況であると認識しているが、具体的な複数年計画というものは無い。

特に問題となるのが駐車場の問題で、患者が押し寄せてきた際に、駐車場に停めることすらできない状況が発生している。あらかじめ患者の増加が予想できる時には、市に相談して、市博物館の駐車場を借りて、そこに患者の車を誘導するなどの対応をしている。

医師などを増やすと言っても、施設のキャパに限界があるため、1か所だけでは厳しい状況である。区の診療所もあるが、検査の関係でどうしても急患診療センターに患者が集中してしまうため、患者の分散など、改善していきたい。

○委員

患者の波が押し寄せてきた時に、急患診療センターだけでなく、開業医と分担しながらシステムを作ってもらえると、市民は安心を感じられるので、ぜひ検討してほしい。

同じ医療圏である糸島からは、どのくらい急患診療センターに患者が来ているのか。

○申請団体

令和5年度の実績で、糸島地区から約900人来ている。

糸島地区よりも糟屋地区の方が多く、約3600人来ている。

○委員

糸島の急患センターの患者数は把握しているか。

○申請団体

把握していない。

○委員

糟屋地区に急患センターはないのか。

○申請団体

南部と北部に1か所ずつ休日診療所があるが、日勤帯しかしていない。

○委員

現在のコロナ患者の状況はどうか。

○申請団体

盆前は多かったが、盆以降は右肩下がりで推移しており、現在は落ち着いている。

○委員

体制については、2040年の人口170万人に向けて今からプランニングしないといけない。

看護師は、出産などの人生のイベントもあるかと思うが、今の体制で対応できているのか。

○申請団体

急患診療センターの看護師は、ある程度子育てが終わった者が多く、産休が必要な者はさほど多くない。介護の問題もあるが、急患診療センターの看護師は、協力してくれる家族を持つ者が比較的多いようで、休みが必要な看護師の数は他の医療機関に比べて少ないと思われる。

○委員

定着率は良いのか。

○申請団体

コロナ禍で退職者がでた。募集を行っているが、コロナ前の人数には戻っていない。

○委員

同じ建物内に看護学校があるが、そこから急患診療センターに就職する流れにはなっていないのか。

○申請団体

なっていない。

急患診療センターは毎日の勤務ではなく、看護師を育てていく仕組みを構築しづらい
ため、基本的に経験者を採用している。

○委員

看護師は現在何人いるのか。

○申請団体

75 人いる。

○委員

予算について、経費削減策など考えていることはあるか。

○申請団体

物品購入など、10 万円を超えるものについては相見積もりをとっている。

○委員

現状の取組みから、今後、さらに見直す予定はあるか。

○申請団体

先ほどの取組みをより一層徹底していきたい。

○委員

4 月から医師の働き方改革が正式に施行されたが、長期的なマンパワー確保について、今後はどのように対策していくのか。

○申請団体

専任医師を増やすことが重要であり、そこを増やす取組みを現在行っている。

今年度は大学病院をはじめ、各医療機関からの協力の元、なんとか運営できているが、次年度以降も協力してもらえるかの確約はないため、今月から派遣元に対して次年度以降の相談をする予定である。

○委員

宿直許可は維持できそうか。

○申請団体

担当役員からは目安として実労働時間が 2 時間半以内と言われており、4 月以降、内科は 2 時間弱、小児科は 2 時間 15 分から 20 分で推移している。外科、産婦人科は患者数が少なく、問題ない。

必要に応じて医師を増やすなど、対応していく。

○委員

患者の利便性やサービスの向上について、今後、検討していることはあるか。

○申請団体

患者の待ち時間が課題としてあり、昨年 9 月に急患診療センターに電子カルテを導入したことで、待ち時間は軽減された。但し、システム上、電子で運用できていない部分もあるため、今後、市と協議して、次回の電子カルテ更新時には、より待ち時間の短縮につながるような、また、医療従事者の負担軽減につながるような電子カルテを導入したいと考えている。

○委員

電子カルテの導入が待ち時間の短縮につながるというのは、カルテを書く時間がなくなるためか。

○申請団体

そうである。

さらに、現在、紙で運用をしている部分もあるため、全てが電子でつながれば、より待ち時間が短縮される。

○委員

問診票をタブレットで入力するなど、DXが普及しつつあるが、そのような設備投資を行う場合は市が費用を負担するのか。

○申請団体

市の予算の範囲内で行うこととなるため、こちらから市へ提案し、協議を行うこととなる。

○委員

急患診療センターの医師は、入れ替わりが多いため、導入している電子カルテに全員が慣れるまでに時間を要すると思うが、状況はどうか。

○申請団体

昨年9月に導入し、多くの医師は慣れた。

初めて出動する医師に対しても、サポート人員を配置して対応している。

《審査の実施》

【非公開】